

昭和五十五年度公立高等学校全日制の課程卒業者の進路状況は、次のとおりである。(昭和五十六年五月一日実施の学校基本調査による。なお、五十五年度以前の数値も、すべてその年度に対応する学校基本調査によるものである。)

一 概況

◆ 卒業者総数は、男子一万二千三百九十九人、女子一万一千六百八十一人計二万四千八十人である。

◆ 大学・短期大学等(大学、短期大学、専攻科への進学者など。また、就職進学者も含む。)への進学率は、昭和四十九年度の二十七・四パーセントから年々減少を示して来たが、本年度は二十三・四パーセントと前年度に比し、〇・三パーセントの増をみた。しかし五十三年度からの三か年に限ってみれば、いずれも二十三パーセント台で、安定した傾向を示している。

◆ 就職率は、五十年度の四十九パーセントから年々増加を示し、本年度は五十二・八パーセントとなった。とくに五十三年度からの三か年では、男女の差がほとんどみられなくなってきた。

◆ 就職者の県内留保率は、四十九年度の四十五パーセントから年々増加を示し、五十一年度には五十三・八パーセントと五十パーセントラインを超え

五十四年度には六十一・三パーセント、五十五年度は六十二・二パーセントを示した。

◆ 各種学校等への入学率は十三・三パーセントを示し、五十三年度からの三か年では大きな変化はなく、ほぼ安定した傾向を示している。

二 進学状況について

(一) 大学・短期大学等への進学(表1・2図1参照)

進学数は、男子二千六百七十四人(二十一・六パーセント)、女子二千九百六十八人(二十五・四パーセント)計五千六百四十二人(二十三・四パーセント)である。

男子の大学進学数は二千五百三十六人で、女子の九百五十三人を上まわっているが、逆に短期大学への進学数では、女子が二千一人で、男子の百十五人を大きく上まわっている。例年、女子の進学率が、男子のそれを上まわっているのは、この短期大学への進学数の差によるものである。

また、五十三年度からの三か年の進学率を男女別にみれば、男子は二十一パーセント台、女子は二十五パーセント台で、安定した傾向を示している。

学科別にこの三か年の進学率をみれば、普通科では三十二パーセント台、工業科では六パーセント台、農業科(水産科を含む、以下同じ)四パーセント台とそれぞれ安定した傾向を示し

ている。しかし、商業科では、十二パーセント台から二パーセントほど減少している。

なお、理数科の進学率は、五十一・六パーセント、前年度四十四・四パーセントと、高い値を示しながら変動は大きい。これは、例年卒業生総数が百六十人ほどで、比較的その数が小さいためである。

(二) 各種学校等への入学(表1参照)

入学者は、男子千二百十三人(九・八パーセント)、女子千九百八十二人(十七・〇パーセント)、計三千九百九十五人である。

五十三年度からの三か年の入学率をみれば、男子は、九パーセント台から十パーセントラインをうかがいながらほぼ安定し、女子は、十七パーセント近辺の値をとりながらほぼ安定している。

(三) 次年度進学希望者(表1参照)

次年度進学希望者数は、男子千八百二十五人(十四・七パーセント)、女子三百八十八人(三・三パーセント)計二千二百十三人(九・二パーセント)である。

この三か年についてみれば、五十三年度、五十四年度ともに男女計において十パーセントであったが、五十五年度は前年度に比し、〇・八パーセント、実数において二百三十五人の減となっている。

(四) 地域別進学率(表2参照)

全般的にみて、前年度と大きな変わりはない。

(四) 学部別進学者(表3参照)

進学者総数五千六百四十二人の内訳は、文科系二千三百七十五人(四十二・一パーセント)、理科系千四百五人(二十四・九パーセント)、その他千八百六十二人(三十三・〇パーセント)となっている。

(六) 大学別進学者数(表4参照)

表4は、主に進学した大学について進学者の実数を示したものである。国立では、福大教、東北大、福大(経)、山形大、新潟大に多く進学しており、私立では、日大、東北学院大、東海大、東北福祉大等に多く進学している。

(七) 共通第一次学力検査について

志願者数は、男子二千六百十四人(前年度二千六百七人)、女子九百五十九人(前年度九百七人)、計三千五百九十九人(前年度三千五百十四人)で、前年度とほぼ同じである。(高校長協会調べによる)

